

日本学術会議 土木工学・建築学委員会
第24期・第10回土木工学・建築学委員会
議事要旨

日 時：令和元年8月9日（金）13：00～15:15

場 所：日本学術会議5階 5-C(1)会議室

出席者：米田雅子、前川宏一、池田駿介、木下勇、小林潔司、田辺新一、大西隆、嘉門雅史、小松利光、
望月常好、塚原健一、吉野博、和田章(Skype)、小池俊雄、桑野玲子、竹内徹（順不同、敬称略）

配布資料

- 資料1 第9回土木工学・建築学委員会議事録(案)
- 資料2-1 土木工学・建築学委員会年次報告
- 資料2-2 土木工学・建築学委員会企画分科会年次報告
- 資料2-3 土木工学・建築学委員会気候変動と国土分科会年次報告
- 資料2-4 環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同長寿・低炭素化分科会年次報告
- 資料2-5 土木工学・建築学委員会インフラ高度化分科会年次報告
- 資料2-6 土木工学・建築学委員会都市・地域とデザイン分科会年次報告
- 資料2-7 土木工学・建築学委員会次世代構造システム分科会年次報告
- 資料2-8 総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同WFEO分科会年次報告
- 資料2-9 心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・
建築学委員会合同子供の成育環境分科会年次報告
- 資料2-10 土木工学・建築学委員会低頻度巨大災害分科会年次報告
- 資料2-11 土木工学・建築学委員会IRDR分科会年次報告
- 資料2-12 日本学術会議土木工学・建築学委員会全体会（当日の発表資料）
- 資料3 第三部会配布資料
- 資料4-1 防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会
- 資料5 第19回アジア学術会議（ミャンマー）資料

議事：

1. 前回議事録案の確認

- ・資料1を用いて第9回委員会の議事録（案）の読み合わせを行った。若干の文言の修正を行った上で承認とした。

2. 委員会・分科会年次報告

- ・資料2-1～12を用いて、各分科会の活動状況が紹介された。
- ・資料2-6 都市・地域とデザイン分科会：家具、インテリア、建築、都市計画などのデザインの一線で活躍する方々をお呼びして、有益なヒアリングをしてきた。これらを受けて多彩な委員により多方面より活発な議論がなされており、これから取りまとめに入る（内藤代理：和田）。
- ・環境工学連合小委員会：来年、第33回環境工学連合講演会を企画している。8/23に小委員会を開催予定（嘉門）。
- ・資料2-3 気候変動と国土分科会：次回提言に向けて目次案を検討する。海面上昇による高潮への影響、耐水建築についても議論したい（望月）。査読用の提言原稿案を2020年3月には準備いただき

たい（米田）。

- ・資料2-4 長寿・低炭素化分科会：世帯構成の変化（4人家族はもはや標準ではない）、アジアの冷房普及、長寿化等、住まいに関わる観点より提言に向けた取りまとめを行っている（田辺）。
- ・資料2-5 インフラ高度化分科会：話題が多岐にわたっており今期で提言をまとめることは難しいが、絞り込みの柱としては、①激頻化する災害に対するインフラのマネージメント、②AI, IOT等の技術の実装、③社会インフラの目的・方向性に関する羅針盤、などをベースに「学術の動向」への小特集執筆を検討する他、2020年3月4日にシンポジウムを開催し、資料集等の出版を考えたい（小林）。
- ・資料2-7 次世代構造システム分科会：今年度は提言を纏めるのは難しいが、道路系を核に土木・建築・機械学会連合のシンポジウムを企画したい（前川）。
- ・資料2-8 WFEO分科会：WFEOではしばらく日本人の理事が不在であったが、2019年WECで塚原委員が国別代表理事に就任予定。WFEOでは3月4日をWorld Engineering Dayと定めているので、インフラ高度化分科会のシンポジウムもその一環として位置づけていただきたい（塚原）。
- ・資料2-9 子供の育成環境分科会：プレーバスの報告は多くのメディアで取り上げられたが、「外遊びの絶滅」という危機意識が強い。過疎化や安全の問題もあり、子供達の交流がネットを通じたバーチャルなものに移行してしまっている。提言を出す予定だが、関係する3委員会の査読を受ける必要があるため早めに取りまとめたい（木下）。
- ・資料2-10 低頻度巨大災害分科会：書物の出版を検討。また防災学術連携体と共同でシンポジウムを企画したい（小松）。
- ・資料2-10 IRDR分科会：地球・人間圏分科会と共同で提言を準備中（小池）。
- ・資料5 アジア学術会議：19回会議を2019年12月3-5日にミャンマーで開催予定。まだ応募が70編前後なので、多くの参加を期待したい（吉野）。WFEOのチャンネルで案内を行う。

3. 土木工学・建築学委員会および第三部に関係する各種の委員会の活動紹介

- ・資料3に基づき、以下の第三部関連の活動が紹介された。科学技術を生かした防災・減災施策の国際的展開に関する検討委員会（小池）、フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（小池）、自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会、人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会（米田）、認知障害に関する包括的検討委員会、科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会、オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会、学術体制分科会。

4. 防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会

- ・資料4-1に基づき、6/13のシンポジウム「災害時医療と理工学分野の連携」について紹介があった。

5. 委員会予算について

- ・5月20日、21日の土木工学・建築学委員会（全体会）、6分科会の合同開催に関する費用（会員手当、委員手当、委員等旅費）と残額について事務局から説明があった。

・限られた委員会の予算の中で、会員手当、委員手当、委員等旅費については分科会に細かく分けて、委員会全体で遠方から来る委員を優先しながら手当を行う方針とすることで概ねの合意が得られた。

・ただし、WFEO分科会、子供の生育環境分科会については単独予算で運営することとなった。

・土木工学・建築学委員会と企画分科会、IRDR分科会、気候変動と国土分科会、長寿・低炭素化分科会、インフラ高度化分科会、都市・地域とデザイン分科会、低頻度巨大災害分科会、次世代構造システム分科会は、現時点での残額を合算した上で、遠方の委員を優先し、遠方の委員の中では退職された方を優先し、会員手当、委員手当、委員等旅費を支払う方針となった。その調整は米田委員長が担うこととなった。

6. 今後の予定

・第11回委員会、2019年11月21日（木） 10:00～12:00

以上